

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270401500
法人名	有限会社 春陽
事業所名	グループホーム 福田
所在地	〒854-0001 長崎県諫早市福田町3346番地5 (電話) 0957 - 21 - 6768

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月4日	評価確定日	平成21年3月9日

## 【情報提供票より】(H20年 12月 19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	3月	31日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	10 人	常勤	6 人,	非常勤 4 人, 常勤換算 5.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費・光熱水費 500円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(12月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 79.8 歳	最低	56 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山口医院・みぞこし歯科医院
---------	---------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは市中心部より車で程近い距離にありながら、住宅や福祉施設が点在し畑や自然に囲まれた静かで穏やかな環境に立地している。開設して3年目を迎え、地域密着型としての特性をよく理解し、地域との連携とその中でいかに入居者が「その人らしさ」をもって日々を過ごされるかを模索し努力されてきた。支援においては、理念に沿っていかに入居者本位で考え行動できるかを、運営者が率先して職員と共に真摯に取り組んでいる。日常的な支援はもちろんのこと、温泉一泊旅行は特筆すべき取り組みで入居者、家族に大変喜ばれており、室内階段壁面の見事なちぎり絵の大作は入居者、職員の協働がうかがえ温かな支援がなされている。住環境としては、高齢者シニア住宅として建てられた構造、設備のメリットを活かしてゆったりとした部分と、ホームとして使いやすく寛げる工夫がなされた部分もあり、明るく整った居心地のよさを感じられる。基盤となる年数を経て、これから更なるサービスの充実と向上に期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回改善計画シートは作成されていないが、自己評価への全職員による取り組みや、地域との交流、市町村との連携への取り組みとしてホーム新聞を市町村の窓口へ届ける、プランに対する評価において職員担当制を導入するなど、多岐にわたり真摯に改善に向け取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価の指摘を受けて、今回は全員で自己評価に取り組んだ。評価の意義と項目内容について全職員に説明の上、管理者を中心に業務の合間に、振り返りながら気づきや意見を職員が挙げて管理者がまとめる形で取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1回、家族代表、自治会副会長、民生委員、市高齢介護課職員、他事業所施設長、運営者、管理者、職員を参加メンバーとして会議を開催している。ホームの活動報告のほかに、外部評価の結果についても報告され、意見、助言をいただいている。今後は開催回数を2ヶ月に1回となるよう目指し、同時に会議内容の充実を図りたいとしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族には行事に参加いただいた折や面会時に、運営者、管理者、職員が直接対面し、意見傾聴の姿勢を常に持つことを第一としている。意見、要望をいただいた際は記録に残し、スタッフ間で情報を共有し対応にあたっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会加入に関しては、自治会行事が多く職員の参加協力、奉仕活動が困難な為に未加入であるが、地域役員の理解を得て可能な行事に入居者も参加させていただき、職員も自治会の草取りなどに協力して交流がなされている。今後は、世代間交流を目標により積極的に働きかけを行い、ホームの外に向けて地域交流を促進していかなることに期待したい。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	もともと5ヶ条からなる理念を掲げていたが、一昨年より職員全員で考えた「ゆったりとその人らしさを大切に」をホーム理念として掲げている。地域の中でいかに入居者本位に暮らしていけるか、そのためにどのような支援が必要かといった職員の思いが、本質にある言葉であり、入居者、家族もわかりやすい文言でといった点にも配慮された。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ゆったり」という点に関しては、入居者の一日のペース、リズムを崩さないように意向を汲んだ支援に努めていくこととしている。「その人らしさ」は、現在は自立度の高い入居者も多くおられるので、入居者の個性を活かす支援に取り組みたいとしている。月に1回の会議において運営者より職員に向けてこうした理念に沿ったサービスについて話しがあり、話し合い確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会加入に関しては、地域自治会が非常に行事が多く、参加協力において職員で対応が困難な為未加入である。しかし、ホーム建物と賃貸契約を交わしている家主が隣接しており民生委員も務められ、自治会副会長も懇意であることから理解を得られており、花見などの行事に入居者が参加させていただいたり、昨夏より職員も自治会の草取りに参加、自治会との交流がなされている。		現在まだ取り組みに到っていない幼稚園、小、中学校との地域における世代間交流や、ボランティアの受け入れなど、より広くに向けた地域との交流が望まれる。地域のキーパーソンとなる方と連携をとり、ホームからの働きかけ、発信を積極的に行うことで更なる地域交流の促進に今後期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価を受けて改善し、自己評価は全員で取り組んだ。評価の意義、項目について全職員へ説明し、業務の空き時間を利用して管理者を中心に、振り返りながら意見や気づきを職員が挙げて、管理者が最終的にまとめた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、家族代表、町内会副会長、民生委員、市高齢介護課職員、他事業所施設長、運営者、管理者、職員を参加メンバーとして会議を開催している。ホームの活動報告がなされ、外部評価の結果についても報告され意見、助言をいただいている。今後、開催回数を2ヶ月に1回とするように目指し、同時に会議内容の充実を図りたいとしている。		

グループホーム 福田

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政窓口へ広報紙としてホーム新聞を届けたりし努めているが、担当者に質問をしても明確な回答が得られない場合もある。ホーム単独としての連携の努力を続ける一方で、連絡協議会などネットワークからの働きかけも図って行きたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊でホーム新聞を作成し、行事予定、活動報告において写真と共に入居者の様子を伝えている。広報活動として行政窓口にも配布している為、個人情報に配慮し、個別の近況報告は写真を添えた手紙など別に書簡で伝える他に、遠方の家族へPCメールで送信し喜ばれている。家族面会時にも口頭で近況を伝え、状況によって電話でもお伝えしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には行事に参加いただいた折や、面会時に運営者、管理者、職員が直接対面し、意見傾聴の姿勢を常に持つことを第一としている。意見、要望をいただいた際は記録に残し、スタッフ間で情報を共有し対応にあたっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は2名の離職者があったが、自己都合のうち理由の一つが結婚であった為、事情を知った入居者も温かく見守っていた様子であった。離職者の挨拶、新規職員の自己紹介は入居者に向けてきちんと行われており、2ヶ月間の引継ぎ期間を設けて支援に支障がないよう配慮した。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には復命にて参加、伝達講習も行われ、職員育成に関して運営者は十分に認識しており参加を奨励している。内部研修も会議の中で、看護師、栄養士の資格を持つ職員による研修の機会を設けたりしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡協議会に参加しており、運営者も世話役として積極的に参加し、情報収集、交換によってホームの質の向上を目指している。職員間の親睦を目的とした会合は行われているが、1日交換職場体験を検討し現在実現に向けて調整している。市外の知己のホームとも、イベントの道具の貸し借りや、外出行事の応援要請に応えるなど交流がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居にあたっては本人、家族にホームを見学していただき、面談、自宅や病院訪問をへて納得の上入居へ到るよう支援しており、希望があれば1、2日の体験入居にも対応している。他施設から来られる方が喫煙を希望された例では、医師と相談し本人とも話し合い、喫煙の回数や場所の取り決めをするなど出来る限り意向に沿えるよう準備してスムーズにホームの暮らしに馴染んでいただけるよう支援した。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「井戸端会議」的に、職員は入居者と共に何気ない会話を日常の中に多く持つように努めて、会話の中にある入居者の思いや意向への気づきにつなげると共にコミュニケーションを図ることで「人生の先輩」としての知恵をいただいている。支援の合間に、入居者からいただく「ありがとう」の感謝の言葉や「美味しいコーヒーをご馳走してあげたい」などねぎらいの言葉に温かな励ましをいただいている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントや生活歴の把握に努めている。本人の思い、意向を日々の気づきから汲み取り、困難な方は表情や家族からの聞き取りで把握するようにしている。利用者調査票など入居者の情報を一冊にファイリングし、職員間の情報共有にも努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向、並びに家族の意見、要望を面会時に伺い、それをもとに担当職員と計画作成担当者によってプランを作成している。出来上がったプランは家族へ説明をおこない、確認をいただいている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的(3ヶ月)に見直しをおこなっている。入居者3名に職員2名の振り当てをして担当制をとり情報収集し、毎月1回担当者がプランに沿ったまとめをするなど全職員による見直しを行っており、皆で会議において話し合わせプランに反映するよう努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援の他、スペースが広く、設備が整った居室もあることで、家族の宿泊支援がなされている。年1回の温泉一泊旅行には家族参加も呼びかけている。家族との日常の会話を密にするようにしている中で、家族の知人が抱える介護支援(施設を探すなど)の相談を受けることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り本人の要望にあわせた支援をと、かかりつけ医への継続した受診支援がなされている。受診結果はかならず家族へ報告し、家族との情報共有、医療機関を含めたホームと三者の連携を大切にしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化、終末期の支援については家族へ向け説明し、職員間でも会議において話し合っている。入居者に嚥下障害による医療的処置が必要となった事例では、職員会議において話し合い看護師もいることから受け入れの判断をしていたが最終的に家族の意向により入院となった。今後も医師を含めた三者の話し合いとホームの方針を明確にしながらの対応を行っていくとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳に重きをおいて支援にあたっている。入居者への言葉かけにも職員間相互で注意しているが、個々にあった呼びかけをして配慮している。		ホーム新聞を広報誌として行政窓口届けたりと対外的に活用しており、個人情報保護に基づく同意書を本人、家族に書面でとられる配慮が望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしさ」を尊重し、希望に沿った支援を持って入居者のペースによる日々の暮らしがなされるよう努めている。その為に、職員で「リビング」「食事」「通院」と担当を割り当ててリビングを中心に見守りを欠かすことなく、職員間で声を掛け合いチームワークによる支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立度の高い方も数名おられるので積極的に食材の下拵え、食後のお盆拭きなどを出来る範囲でお手伝いいただいている。季節を感じさせる献立を話題に、職員も共にいただいている。週に3、4回は手作りおやつも用意され、会話も多く楽しいひと時を過ごす支援がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一部居室の浴室を利用し入浴している。原則、火、木、土曜を入浴日として希望があれば毎日でも、時間帯も要望に応えられるよう柔軟な支援がなされている。温泉旅行、ないしは日帰り温泉が行事として定着しているため、入居者には喜ばれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度を始め、全居室のゴミ集め、食前の挨拶は入居者に役割を担っていただいている。隣家の大家さんに協力いただいて道路を挟んだ畑では季節によって多種の野菜が収穫され手入れに動んでいただいている。編み物や買い物も楽しみとされており、大相撲場所中はリビングに大きく星取表を張り出し、予想をして全員でテレビ観戦をし楽しい時間を過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩など日常の外出は希望に沿った対応に努めている。毎年秋の行楽にと一泊温泉旅行をおこなってきたが、昨秋は入居者の状態で日帰りとなった為、今春に桜かつつじを見て季節を感じ楽しんでいただけるような一泊旅行を予定している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠されておらず、安全配慮の為チャイムを設置し見守りを持って支援している。2階居室の窓から入居者が隣家に向かって物を落とすということがあり配慮が必要となった為、セキュリティーサービスに依頼しサッシ窓にセンサーを設置した。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、地域住民、入居者、職員参加により火災避難訓練を夜間想定も含め、年2回おこなっている。ハザードマップ、消火器などの備えや、日常的にガスの元栓チェックを全職員で徹底するなど、防災に関して万全の注意を払うよう努めている。備品、備蓄の用意もなされている。		

グループホーム 福田

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士の資格を持つ職員がいるため、栄養バランスには配慮された食事が提供されている。キザミなどの形態食も対応され、水分摂取もコップに目盛りをつけ飲まれた量の目安を測っている。健康に配慮し雑穀米がだされており美味しいと喜ばれ、麦ご飯は懐かしいと召し上がっておられる。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に比べてリビング兼食堂のスペースは少し狭い印象もあるが、アットホームに寛ぐには十分な広さと雰囲気作りに配慮されている。2階に上がる階段には冷暖房効率の為に防災認可のクリアカーテンがされ、安全に配慮し柵も階上につけられている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>高齢者シニア住宅が前身の建物ということで、各室にキッチン、浴室、洗面所、トイレがありスペースは広い。備え付けはエアコン、照明で、ベッド、タンスなどの家具は使い慣れた持ち込みのもので、調度品や写真などその人らしさが感じられる支援がなされている。</p>		